



すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

平成30年10月3日 No. 493

杉七小の小中一貫教育

副校長 船橋 伸弘

運動会には、多数の保護者・地域の皆様に、朝早くから御来校いただき、ありがとうございました。9月29日は、あいにくの空模様でプログラムを大幅に変更しての実施となりましたが、子供たちは雨にも負けず、練習の成果を存分に発揮していきいきと演技し、力いっぱい走りました。また、本日行った第2部は、団体競技種目が中心でしたので、子供たちは自分の組を勝利に導こうと全力を尽くしました。温かいご声援と拍手に重ねてお礼申し上げます。

さて、9月14日(水)は小中一貫合同研修日でした。阿佐ヶ谷中学校と杉並第六小学校と杉並第七小学校の先生で合同研修を行う日です。「主体的に学ぶ児童・生徒の育成～対話と協働を取り入れた授業づくりを通して～」をテーマに研究を進めています。今回は、本校が会場校でした。算数の授業を6年生、英語を5年生、理科を3年生、道徳を1年生で行いました。

杉七小の先生が中心のT1として授業をしますが、阿佐中と杉六小の先生がT2、T3として入るチーム・ティーチングの授業でした。途中で中学校の先生が問題を出すというだけで、子供たちの反応が違います。また、中学校の先生も小学生を相手に笑顔で応えています。初めは緊張していた子供たちも、すぐに慣れて楽しく学習することができました。

研究授業を行う際には、学習指導案を作成します。そのために、事前研究として3校の先生が集まり、検討を重ねてきました。また、小中一貫教育の視点で、「系統性」と「連続性」について単元を見直し、研究テーマである「対話」と「協働」について、どのように授業を展開していくかを考えました。この日の研究授業は、2学期が始まる前から、3校の先生たちが協力して作った授業だったのです。

杉並区の小中一貫教育の取り組みの視点として、「つながり」と「生かし合い」があります。「つながり」とは、9年間の指導目標・内容の「系統性」と、指導方法の「連続性」です。「生かし合い」とは、教育人材の「協働」です。三校の教員が交流し、授業研究の研修会を活発に行うのは、このためです。

杉並区の小中一貫教育では、6・3制を維持したまま各学年の学習内容を着実に身に付けていくことを重視し、義務教育9年間を見通した教育を進めています。小学校のよさを中学校で生かし、中学校のよさを小学校で生かしていこうという考えです。ですから、研究授業だけではなく、他にも様々な小中連携活動も行っています。例えば、杉六小と杉七小の6年生がプレスクールとして阿佐ヶ谷中へ出かけ、中学校の授業や部活動等を体験しています。また、連合運動会前には、阿佐ヶ谷中の高津副校長先生が6年生にリレーのバトンパスを指導する予定です。今年は天候の都合でできませんでしたが、例年、杉七小の運動会に阿佐ヶ谷中学校陸上競技部の生徒が参加し、デモンストレーションを行っています。嬉しいのは杉七小を卒業した中学生が、後輩の小学生に立派な姿を見せてくれることです。小中の連携によって、小学生は中学生を身近なお手本ととらえて成長し、中学生は年長者の自覚を高めて小学生に模範となる行動をとるのです。

さらに、10月には阿佐ヶ谷中体育館で小中連携企画「阿佐オリンピック」が、3月には小学校の児童会と中学校の生徒会が合同で開催する「阿佐中サミット」があります。阿佐中・杉六小・杉七小の3校で連携し、児童・生徒の「かかわり」「つながり」の中で豊かな人間性を育てていきたいと思えます。